

栗林遺跡の調査成果

これまでの調査で、栗林遺跡は縄文時代中期中葉から後期初頭（約5,000～4,000年前）にかけての大きな集落跡だということがわかってきました。1～5次調査の合計で、竪穴住居跡約100軒、土坑約500基、土器埋設遺構約110基などが見つかっています。出土した土器・石器の量は、整理箱（60×40×15cm）で1500箱ほどになりました。

竪穴住居跡は裏面の「遺構配置図」のように、幾重にも重なって見つかります。このことから、何度も住居を建て替えたことが窺えます。また竪穴住居跡の多くには、「複式炉」と言われる南東北地方に特徴的な大型の炉が備わっています。

土坑には、お墓や獣を捕まえるための落とし穴、ドングリなどを蓄えるための穴などがあります。なかでも「フラスコ状土坑」と言われる大型の貯蔵穴が多数見つかっています。土器埋設遺構は、幼児や死産児などのお墓と考えられ、縄文土器をお棺として使用したものです。



97号住居跡の「複式炉」



110号土器埋設遺構

栗林遺跡（5次調査） 現地公開資料

調査場所：南会津郡下郷町中妻字和田前・柳ノ下
調査期間：令和3年4月12日～8月6日（予定）
調査主体：福島県教育委員会
調査機関：公益財団法人福島県文化振興財団

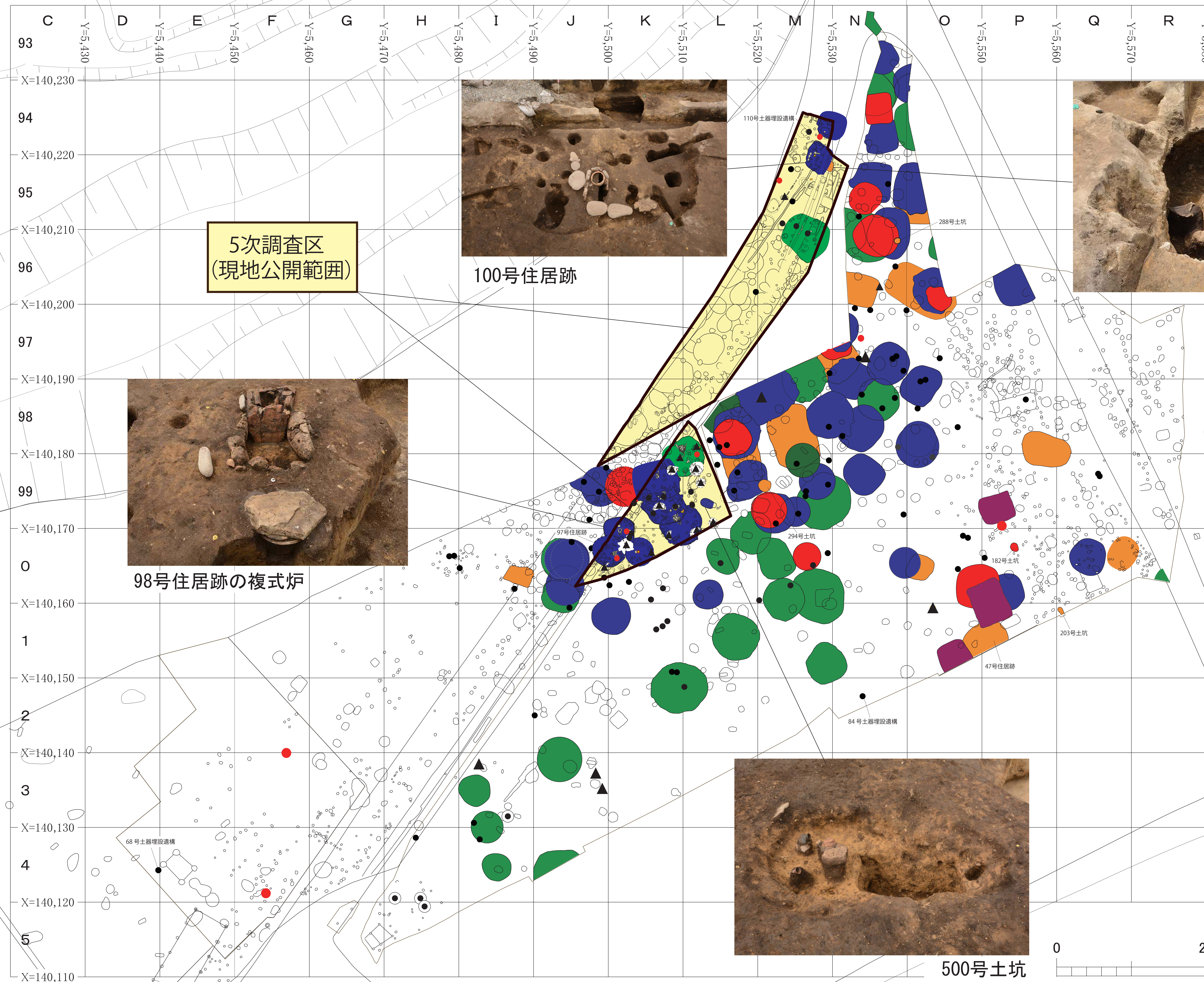
日時：令和3年7月17日（土）
午後1時30分～3時30分

はじめに

栗林遺跡は下郷町役場の約2km北東に位置し、阿賀川右岸の段丘上に立地しています。国土交通省東北地方整備局郡山国道事務所が進めている会津縦貫南道路湯野上バイパスの建設に伴い、平成27年度に1次調査を、平成30年度から令和2年度にかけて2～4次調査を実施しました。今回は、5次調査の成果をご覧ください。



97号住居跡



5次調査区
(現地公開範囲)



100号住居跡



466号土坑



98号住居跡の複式炉



500号土坑

栗林遺跡（1～5次調査）遺構配置図